

# お知らせ

## ◆周作クラブ「新年会」のお知らせ

今回は会場参加型で新年会を行ないます（豪華景品を用意した福引付き）。久しぶりのパーティー形式での集いです。どうぞご期待ください。（※オンライン参加はありません）

▼ひと月ほど前になったら、往復ハガキをさしあげますので、ぜひご予約をあけておいてください。

日時 1月27日（土）12時から  
会場 SCHMATZ 銀座松竹スクエア店

※晴海通りに面した歌舞伎座の並び、新橋演舞場の向かいのガラス張りのビル2階。ドイツ料理の店です。中央区築地1の13-1

## ◆遠藤文学・原点の旅

今年の「遠藤文学原点の旅」を、左記のように計画しています。

### 第22回 遠藤文学・原点の旅

長崎に生誕百年遠藤周作展を観る

——夕陽と懇親会、一泊の旅

2024年5月19日（日）～20日（月）

※希望者は延泊も可能

### 予定スケジュール

羽田→長崎空港（貸切バスで）遠藤周作文学館→角力灘の夕陽を見る→懇親会→ホテル泊（市内）翌日は自由行動

のち長崎空港から帰京。

※各地の空港からの発着も可能です。

最少催行人数は15名です。

※プラン確定のためには、おおよその参加人数を把握する必要があります。そこで参加ご希望の方には仮申込をお願いします。申込先は、周作クラブ宛て、メールか、ハガキ（メールアドレスと住所はこのページ下段を参照）で、12月25日までお願いします。

実現可能となれば、次号会報で詳細なスケジュールを発表し、参加ご希望の方々は旅行社から直接のご案内を送ります。まだ迷っておられる方も、とりあえずお申し込みください。3月に詳細なスケジュール、料金をお知らせし、改めて参加・不参加をお伺いします。

## ◆生誕100年遠藤周作展

——ミライを灯すことば

町田市民文学館ことばらんど  
開催期間 12月24日（日）まで  
観覧時間 10時から17時まで  
観覧料 一般600円、大学・高校生300円、中学生以下は無料。

休館日 毎週月曜、12月14日（木）  
▽12月に行われる関連イベント  
（以下①～③のイベント参加には展覧会チケットの提示が必要）

- ①担当学芸員による展示解説 12月24日（日）
- ②講演会 時代を超える遠藤文学 講師 加藤宗哉
- 日時 12月9日（土）14時

会場 町田市民文学館ことばらんど  
申込は12月7日（木）まで。

③映画「深い河」上映会  
日時 12月2日（土）14時

会場 町田市民フォーラム  
申込は11月30日（木）まで。

※申込先は、講演会・上映会ともにイベントダイヤル042・724・5656まで。

町田市民文学館ことばらんど  
町田市原町田4-16-17  
☎042・739・3420

※最寄り駅はJR横浜線、小田急線「町田駅」。

## ◆遠藤周作の近刊・新刊（4冊）

『現代誘惑論 遠藤周作初期エッセイ』

7月25日刊行

『ころび切支丹 遠藤周作初期エッセイ』

9月15日刊行  
『人生を抱きしめる 遠藤周作初期エッセイ』  
10月18日刊行  
『砂の上の太陽 遠藤周作初期短篇集』  
11月17日刊行

各々定価1,980円  
いずれも河出書房新社

恋愛論を中心に、究極の「愛」の形にせまる『現代誘惑論』、『沈黙』発表前の貴重な講演録を併録した『ころび切支丹』、人間の真理と人生の約束を追究する『人生を抱きしめる』、人間の根源的な苦悩を描き、遠藤文学の道標となる作品を収めた『砂の上の太陽』。生誕100年を記念し、数々の単行本初収録作品を刊行。解説は今井真理。

お問合せは、河出書房新社編集部、太田美穂まで。 [hota@kawade.co.jp](mailto:hota@kawade.co.jp)  
☎03・3404・8611  
☎03・3404・1377



## ◆「会報」の原稿募集

会員の皆さまの原稿を募集します。900字（半ページ分）あるいは1800字（1ページ分）。遠藤周作の人と作品について、あるいは遠藤文学との関わりなど、何でも結構です。

なお、原稿は必ず下記「周作クラブ」宛てに郵送するか、下記Eメール（原稿添付）でお送りください。掲載の際にはご連絡差しあげます。

## ◆「周作クラブ」会員募集

「周作クラブ」では会員を募集しています。遠藤文学ファンはもちろん、これから読んでみようという方々も大歓迎です。年会費は3,000円。入会金はありません。年4回発行の「会報」が送られます。会が主催する「新年会」「周作忌」「文学セミナー」や遠藤作品の足跡を訪ねる「遠藤文学・原点の旅」、そして「オンライン懇親会」にも参加できます。下記

「周作クラブ」まで、ハガキかEメールでお申込みください。折り返し、資料と会費振込用紙をお送りします。

## ◆編集後記◆

▼秋らしくなってきましたが、と書こうと思つたら、天気予報ではまた夏日とか。紅葉も今一つ色鮮やかにみきれず、おかしな秋です。

▼今年の周作忌は生誕百年記念シンポジウムが開催され、パネリストの皆さんを交えて大変有意義な時間を過ごせました。来年はパーティー形式の周作忌ができるでしょうか。

▼今号で29回続いた宮辺さんの連載「劇団樹座の30年」が最終回となりました。7年以上続いた連載でしたから、私が副編集人をお引き受けする以前からでした。長いことお疲れ様でした。94号からは、また新たな連載を企画しています。ご期待ください。

▼長崎市遠藤周作文学館の読書感想文コンクールで、二編の最優秀作品が選出されました。どこよりも早く、今号に発表掲載されています。若く瑞々しい感性で読んだ『沈黙』（中学生の部、高校生の部ともに、『沈黙』の感想文でした）を、私ももう一度読み返してみたくになりました。（亀）

## 「周作クラブ」第93号

2023年11月発行

■編集人 高橋千劍破

■副編集人 亀岡 園子

■編集部 一田佳希、大原雄、近藤恭弘、高木香織、清水優子

■発行所 東京都世田谷区上馬4-29-17 加藤宗哉事務所内「周作クラブ」

Eメール [Shusaku\\_club@yahoo.co.jp](mailto:Shusaku_club@yahoo.co.jp)